

大日野原遺跡 上黒岩第 2 岩陰遺跡 滝坂遺跡

2015 年度発掘調査の概要



2016 年 3 月 31 日

中央大学文学部日本史専攻考古学ゼミ 小林謙一



大日野原遺跡

神奈川県相模原市

中央大学考古学研究室では、2008年から毎夏、神奈川県相模原市緑区澤井に位置する大日野原遺跡をにおいて、学術調査をおこなっている。2012年から引き続き調査しており、第4次調査地とした地点を、中央大学文学部長都筑学から神奈川県教育委員会教育長に文化財保護法92条第1項に基づく発掘調査届けを5月11日に提出し、6月1日に受理（文遺第50039号）された。発掘期間は、7月30日から8月7日までである。本遺跡は、山稜地帯の平坦面に広がるので後世の大規模な破壊を受けていない貴重な縄紋時代の大集落遺跡である。本研究室の発掘調査でも、第3次調査において竪穴住居跡を7軒確認している。

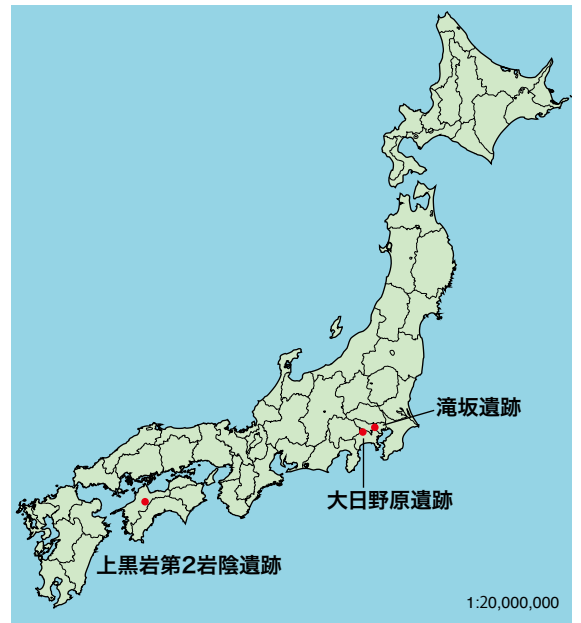
今年度調査区は、昨年レーダー探査をおこなったRC区とRD区とした場所を発掘した。レーダーに土質が異なると関知された地点からはピットが検出された。また、今年度は確認調査のため、すべての遺構は半裁にとどめた。確認した遺構は、縄紋時代より新しい時代として近代のイモ穴（SX54）、古代の円形土坑（SX29・47・51・52・53）5基を確認した。縄紋時代の遺構は、直線的に並ぶピットを4基、土坑（SK1）、径4mの円形の範囲に礫および後期堀ノ内1式土器を含む遺物集中（SI-15）を確認した。

出土遺物には、縄紋土器（後期堀之内式・称名寺式、中期勝坂式・阿玉台式・加曽利E式）、縄紋石器（石鏃・打製石斧・磨製石斧・石錘）などが遺構内や包含層から出土した。

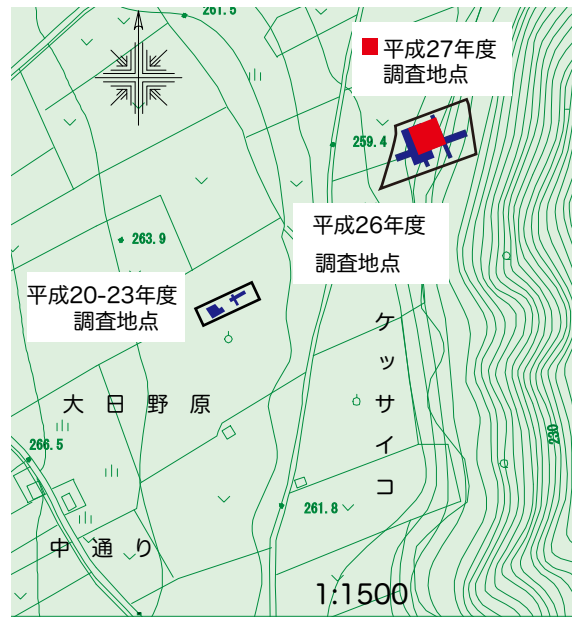
調査参加者：小林謙一（中央大学）、木村弘樹（相模原市立博物館）、カリン・レーボリ、西本志保子（中央大学大学院）、矢嶋良多、小澤政彦、金城奈緒子（中央大学院・大学卒業生）、佐藤正史、阿部大誠、今藤桃花、吉岡由衣、齋藤菜摘、田茂淑乃、戸村佑子、池野理、谷貝千紘、中山雄仁、横田眞菜美、岩本華奈、真田菜央、木村祐香、石川真優、宮尾光、鈴木草太、田和綾野、葛根田純佳、森若菜、平賀俊明（中央大学）、網谷愛美、橋本歩実、松本和也、海老沢萌絵、中村友輝、工藤真吾、金子悠人、玉土大悟、柳川由佳、望月万彩、綾女敬伍（中央大学考古学研究会）、大野朝日（金沢大学）、大網信良、山崎太郎、井上早季、佐藤亮太、平石瑞穂、鈴木宏和、星野宙也、辻角桃子、山田義昭（早稲田大学）、鈴木佑太郎、栗田大輔、高橋宏樹（東海大学）、大熊雅弘（駒澤大学）、西村曜子（ペンシルバニア大学）、小林和子（ラガーディア短期大学）、鹿山茂樹、和家洋壽、三嶋最都子、宮本弘文（以上相模原市立博物館ボランティア）、平賀俊明（一般）

調査協力者（順不同、敬称略）

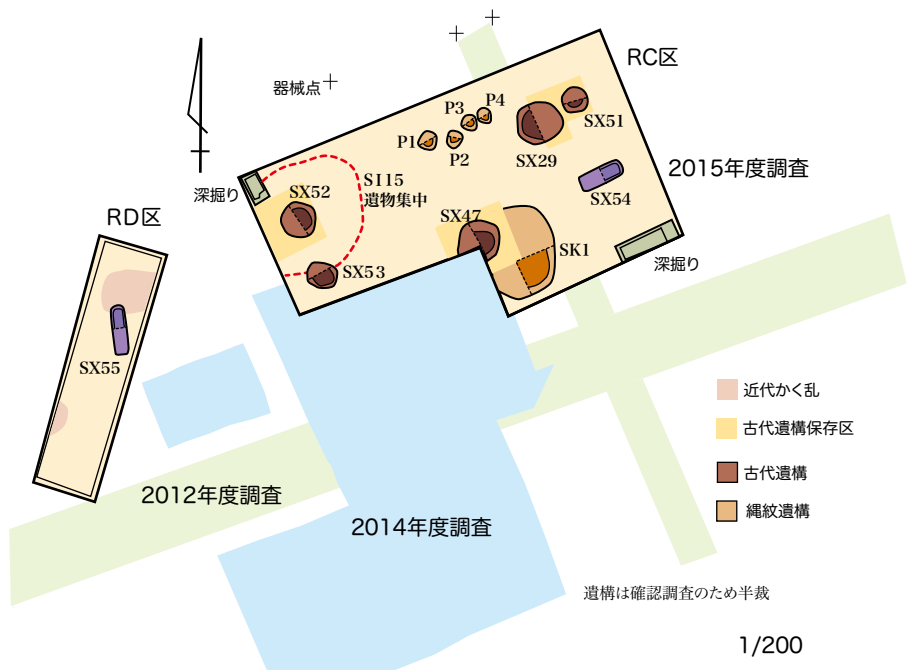
河本雅人、中川真人（相模原市教育委



遺跡の位置



調査区の位置



2015年度調査区全体図

員会教育局生涯学習部文化財保護課)、千葉毅(神奈川県立博物館)、高山理美(古川電工)、武田剛朗(大網白里市教育委員会)、田畑幸嗣、ナワビ矢麻(早稲田大学)、山本典幸(首都大学東京)、五十嵐睦(平塚市教育委員会)、徳留彰紀(志木市教育委員会)、今泉克己(有明文化財研究所)、長井光彦(武蔵)、橋本望(杉並区遺跡調査会)、相模原市教育委員会、藤野中央公民館、鈴木裕子(地権者)



調査前風景



調査区全景(ドローンによる空撮)



土坑(SK 1)



ドローン撮影画像 3D処理工程および図化



調査風景



小学生体験発掘



出土土器・土製品・石器

上黒岩第2 岩陰遺跡遺跡

愛媛県久万高原町

縄紋時代草創期から早期の岩陰居住跡である国指定史跡上黒岩岩陰遺跡の周辺調査として久万高原町教育委員会とともに上黒岩第2岩陰遺跡の発掘調査をおこなった。第2岩陰遺跡は岩陰遺跡の500m南の山中腹に位置する。2010・2011年度トレンチ調査では、縄紋時代早期前半押型文土器および縄紋時代草創期と考えられる石斧未製品・チャート製剥片などが出土したが、残念ながら居住痕跡は確認されていない。2015年度は、居住痕跡を求め押型文土器出土トレンチ周辺を中心に発掘調査をおこない、縄紋早期・前期・中期の土器片を検出した。ただ、発掘した土層は、明確な縄紋早期包含層と認められなかった。しかし、岩片の再堆積層を掘り抜いておらず草創期の包含層があるならば、まだ下層に存在する可能性がある。よって、今後、調査を継続的におこなっていく予定である。

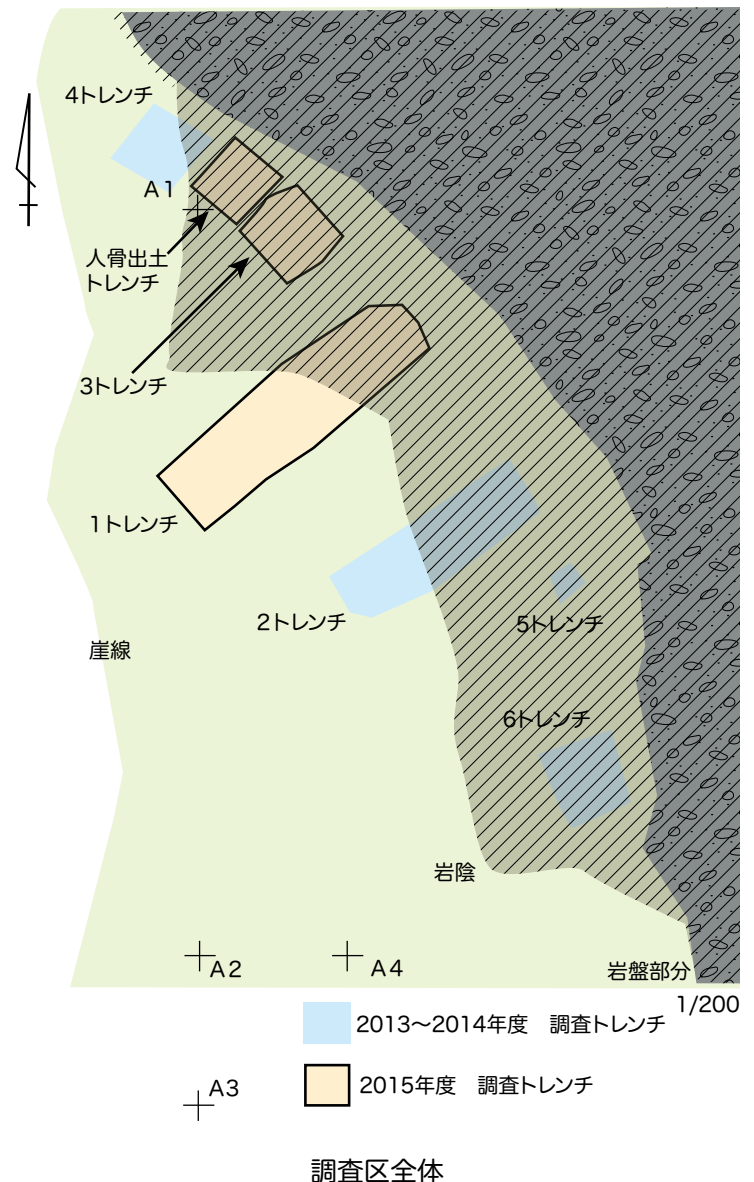
縄紋時代以外では、今年度設定のトレンチから、近世の埋葬人骨が検出された。円形に掘り込まれた穴の中に屈葬の状態でも遺存していた人骨で、奈良貴史氏の鑑定によれば成年男性であり、米田穰氏に委託してAMS炭素14年代測定をおこなった結果によれば、17世紀ごろに帰属する可能性が最も高い。目的としていた縄紋文化の所産ではないが、山間部における岩陰利用を探る上で重要な知見を得ることができると考えている。

特筆すべき遺物として、研究室に持ち帰った早期土器出土層土壌サンプルを乾燥ふるいで選別したところ、縄紋早期所属と考えられる小型石鏃を検出した。これをふまえ、来年度の調査では、現地にて土壌選別をおこなう予定である。

参加者：久万高原町 和田雅志、梶家広、中央大



上黒岩第2 岩陰遺跡遠景



岩陰全景

小林謙一、カリン・レポーリ（中央大学）、遠部慎（地球環境研究所）、平賀俊明（一般）、西村曜子（ペンシルバニア大学）、大野朝日金沢大学、及川穰、考古学実習生8名（島根大学）

協力者：竹口和博（地権者）、柴田昌児（愛媛大学）、宮里修（高知大学）、奈良貴史（新潟医療福祉大学）、米田穰（東京大学）、久保国和、高山稔明、大野和也（久万高原町）



第1トレンチ



出土人骨



土層断面



調査風景



乾燥ふるい選別



極小石鏃



出土土器

が、縄紋土器や石器を自らの手で発掘され賑わった。

昨年引き続き、調査区全景空撮には周囲の住民の了解を得て、早稲田大学の田畑幸嗣准教授によるマルチコプター（ドローン）で撮影をおこない、3D画像による全体図を作成した。

参加者：小林謙一、西本志保子、カリン・レーボリ、考古学ゼミ生、考古学実習履修生、（中央大学）、田畑幸嗣、ナワビ矢麻（早稲田大学）、下原裕司、高麗正、藤田優美（三鷹市教育委員会）、石井則孝、沼上省一、齊藤圭子（三鷹市遺跡調査会）小林尚子、平賀俊明（一般）



遺物集中



ドローン撮影全景 3D図化



出土縄紋土器



ドローン撮影全景 3D図化



出土陶磁器 縄紋石器



三鷹市民体験発掘



報告書抄録

ふりがな	おびのっばらいせき かみくろいわだいにいわかげいせき たきさかいせき							
書名	大日野原遺跡 上黒岩第2 岩陰遺跡 滝坂遺跡							
副書名	2015 年度発掘調査の概要							
シリーズ名	中央大学文学部考古学研究室2015年度活動報告							
シリーズ番号								
著者名	小林謙一・小林尚子							
編集機関	中央大学文学部日本史学専攻考古学ゼミ 小林謙一（編集 小林尚子）							
所在地	東京都八王子市東中野 742-1							
発行年月日	2016 年 3 月 31 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
おびのっばら 大日野原遺跡	かながわけんさがみほらしみどりくさわい 神奈川県相模原市緑区深井 748	14-209	465	35° 37' 38"	139° 08' 43"	2015.7.30～ 8.7	75.1㎡	学術調査
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
大日野原遺跡	集落跡	縄紋時代		遺物集中 土坑 ビット		縄紋土器 縄紋石器		整理作業中
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
かみくろいわ 上黒岩第2 岩陰遺跡	えひめけんくまこうげんちようかみくろいわ 愛媛県久万高原町上黒岩1206-1			33° 36' 47"	132° 57' 30"	2015.8.17～ 8.21	10.3㎡	学術調査
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
上黒岩第2岩陰遺跡	洞穴遺跡	縄紋時代 近世		埋葬遺構（近世）		縄紋土器 縄紋石器		整理作業中
ふりがな	ふりがな	遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地							
たきさか 滝坂遺跡 M15-105	みたかしなかはら 三鷹市中原 2-26-14外	三鷹市No.43		35° 39' 57"	139° 34' 28"	2015.10.28-11.10	119.6㎡	学術調査
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
滝坂遺跡	集落跡	縄紋時代 近世		遺物集中 土坑 ビット 溝		縄紋土器 縄紋石器		整理作業中

中央大学文学部考古学研究室 2015 年度活動報告

大日野原遺跡・上黒岩第2 岩陰遺跡・滝坂遺跡

2015 年度発掘調査の概要

印刷・発行日 2016 年 3 月 31 日

編集・発行 中央大学文学部日本史学専攻考古学ゼミ
小林謙一

〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1